

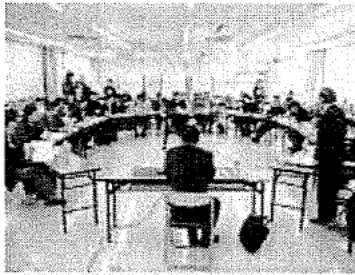
宮川流域ルネッサンス事業推進体制の推移

	平成9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	
	県事業としての計画策定と事業推進					宮川流域ルネッサンス協議会を主体とした地域主導体制への移行						
計画策定体制	ルネッサンス委員会 (学識経験者を中心に発足。10年3月からは国関係機関、市町村代表が加わる。) 同 計画部会 (学識経験者、国関係機関、市町村で構成。実質的な策定作業を進める。) 同 水部会 (学識経験者で構成。流量回復方策影響調査の実施にあたり指導・助言を行う。)					宮川流域ルネッサンス協議会 円卓会議 (ルネッサンス委員会を受け継ぐ形で協議会に設置。) ○「流量回復・水質保全」会議 ○「森林保全」会議 ○「地域振興」会議 ↓ 成果 ・情報や意識の共有が図られた。 ・各テーマの方向性が確認され今後につながる議論ができた。 課題 ・情報提供や質疑応答など、議論が中心で具体的な行動につながりにくい。						
						「新しい時代の公」・「文化力」を柱に第3次実施計画を策定 → 地域主導の取組の充実を重視 ○地域主導の活動を推進していくため、想いをかたちにプロジェクトキックオフ大会を開催 ・BDFプロジェクト ・竹林の活用プロジェクト ・自転車だから見える伊勢プロジェクト など ○円卓会議では、「子どもたちの」との連携をメインテーマに 子どもたちの連携実績 ・宮川流域いっせいチェックの一環で、小中学校の総合学習の時間などを活用し水質調査学習会を住民と協働で実施 議論から行動へ ○宮川流域で活動する人たちの共通の目標・共通の想いを明確にするため、円卓ワークショップを開催 「子どもたちの連携」が最も重要なこととして位置づいた。 地域主導の取組の推進 ○地域主導の活動を宮川プロジェクトとしてPDCAサイクルによる活動充実を図る。 ・活動集の発行、活動報告会の開催などを行う。						
事業推進体制						宮川流域ルネッサンス協議会 → 会長:伊勢市長 事務局は、県職員(3名)及び市町職員(1名)で構成 5つのテーマを設定し、事業を展開 ○流量回復 ○水質保全 ○生態系保全 ○森林保全 ○地域振興 市町職員が2名に増員。 事務局長が県職員から伊勢市職員へ						
県組織	事業推進会議 (副知事を座長に関係部局長、県民局長で構成) → 同 作業部会 (県関係部局及び県民局の関係室長で構成) → 同 地域検討会 (地域機関間の調整を目的に県関係課長で構成) →					廃止 (部局長会議の見直しによる) 事業推進調整会議 (県関係室長で構成) 同 地域調整会議 (地域機関関係室長で構成)						
計画	ビジョン・基本計画		第1次実施計画			第2次実施計画			第3次実施計画(～22年度)			

自主自立・協働連携で取り組む流域圏づくりのモデルとして県内他流域に情報発信

宮川流域ルネッサンス円卓会議**●円卓会議とは**

宮川にかかわる人が、地域のさまざまな課題を見つけ、それについて話し合い、みんなでどんなことができるかを話し合う場です。また、話し合いを通じて、お互いのおもいをひとつにしていくこともねらいです。



平成15(2003)年1月25日、約50人の方々が集まり、円卓会議が開催されました。これから、議論のスタートです！

●いつ？

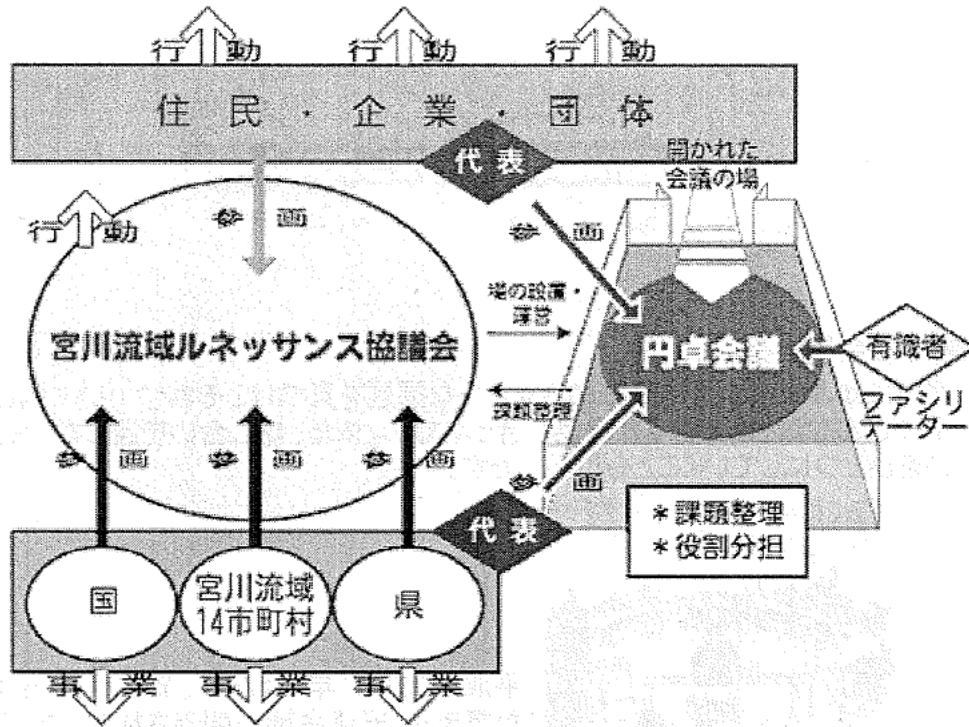
平成14年(2002)年度から平成19(2007)年度まで、各会議を月1回くらい開きます。平成17(2005)年にやり方を見直す予定です。

●どこで？

宮川流域14市町村内の、みなさんの身近なところで会議を開きます。

●だれが？

メンバーは住民、団体、企業と行政(市町村、県、国)の代表で、専門家がファシリテーター(司会役)をつとめます。会議はだれでも見ることができ、メンバー以外の参加者も意見を言えるようにします。



宮川流域ルネッサンス協議会と円卓会議

日本一の清流をめざして、住民、企業、行政が 役割分担を明確にし、
宮川流域圏をめぐる 広域的な課題を整理し、
「円卓会議」を設けて、行動へと結びつけていきます。

●なにを？

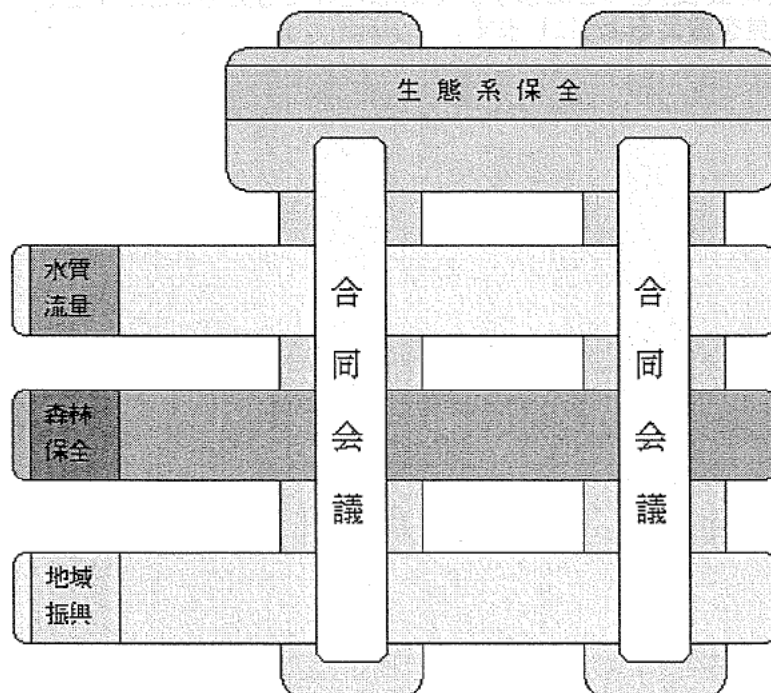
宮川流域全体で考えていかなければ解決できない広い範囲に及ぶ課題を取り上げます。主に次の5つのテーマについて話し合いを行います。

「生態系保全(代表者会議)」

「森林保全」

「流量回復・水質保全」

「地域振興」

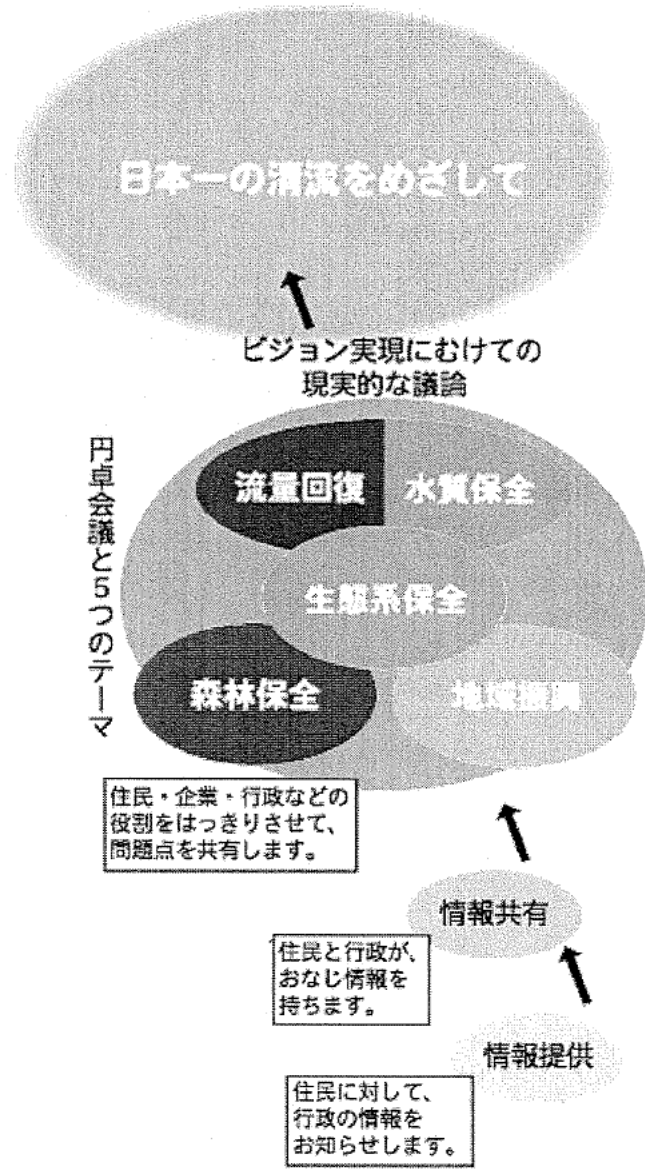


- 「水質流量」「森林保全」「地域振興」
課題の整理を行ない、個々の議論を行なう。
- 「生態系保全」
合同部会として開催。
重点課題を横断的に捉える。コアメンバーは3部会のメンバーから選ぶ。

●どうする？

住民、団体、企業、行政のそれぞれが役割をもって、課題を解決するために何ができるかを考え、実際の行動に結びつけます。

～ 要望から、パートナーシップによる協働へ ～



[前のページへ](#)

[HOME](#)
トップページへ

[キックオフ大会](#)